（善隣・保護者の会）

泉の会だより

善隣幼稚園で定期的に開催している保護者の集まり（泉の会と呼ばれています）では、園長自らがマイクを持って、子育てや幼児教育について大切にしたい考えや想いを保護者の皆さんにお話する場を持っています。家庭との連携を大切にしている善隣幼稚園ならではの温かい時間です。今後、そのお話の内容を少しずつシェアしていこうと考えています。

＜泉の会だより　Vol2＞

今年度の保育目標は「生きる保育」です。「生きる保育」とは、どういった保育なのでしょうか。今日は改めて、そのことについて考えてみたいと思います。はじめに一つの詩をみなさんにご紹介したいと思います。

「生きる」（水野源三）

神さまの大きな御手の中で

かたつむりは かたつむりらしく歩み

蛍草(ほたるぐさ)は　蛍草らしく咲き

雨蛙(あまがえる)は　雨蛙らしく鳴き

神さまの大きな御手の中で　私は私らしく生きる

私らしさを受け入れることが、生きるということです。子ども一人一人がその子らしく生きることができる生活を保証するのが保育の、そして家庭の、目指すべき姿なのでしょう。そのために、善隣幼稚園は子ども一人一人が好奇心や探究心を発揮できる「自由や優しさ」がある保育を大切にしています。子どもたちの興味を知るために、子どもの「声を聞く」ことをしようと先生たちと話しています。どんな姿がその子らしいといえるのでしょうか。「イキイキとしているか」ということが一つのテーマだと私たちは考えています。集団生活の中では、みんながイキイキすることは一人一人の違いが際立つことでもあります。そこにはトラブルが起こるかもしれません。でも、トラブルに向き合って、解決し、その中で学びを得て、力がついて、さらにイキイキと「その子らしく」生きていくのです。必ずしもうまくいくとも限らないし、親の気持ちと反したことが起こるかもしれません。うまくいくかどうかがチェックポイントではないのです。うまくいってもいかなくても、イキイキしているかどうかに注意深く耳をすませて、子どもたちのその子らしさを信じて、背後から見守る。そんな幼稚園でありたいと思います。